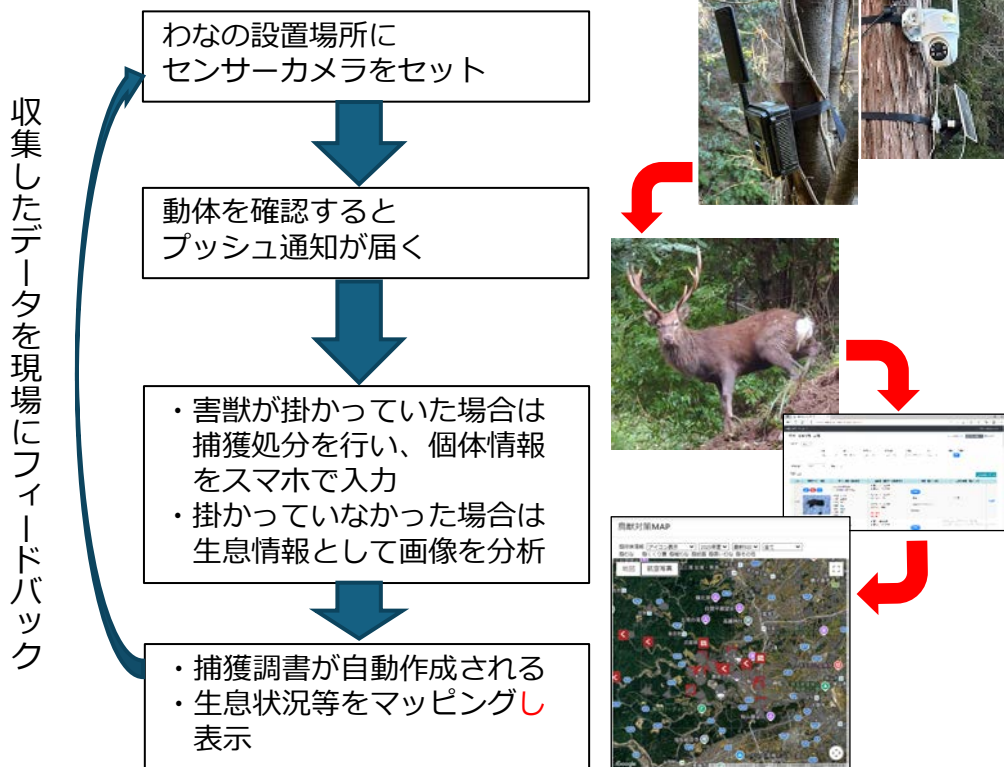


実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7~R9	埼玉県飯能市（飯能市鳥獣害対策協議会）	全般	◎	○	—	○

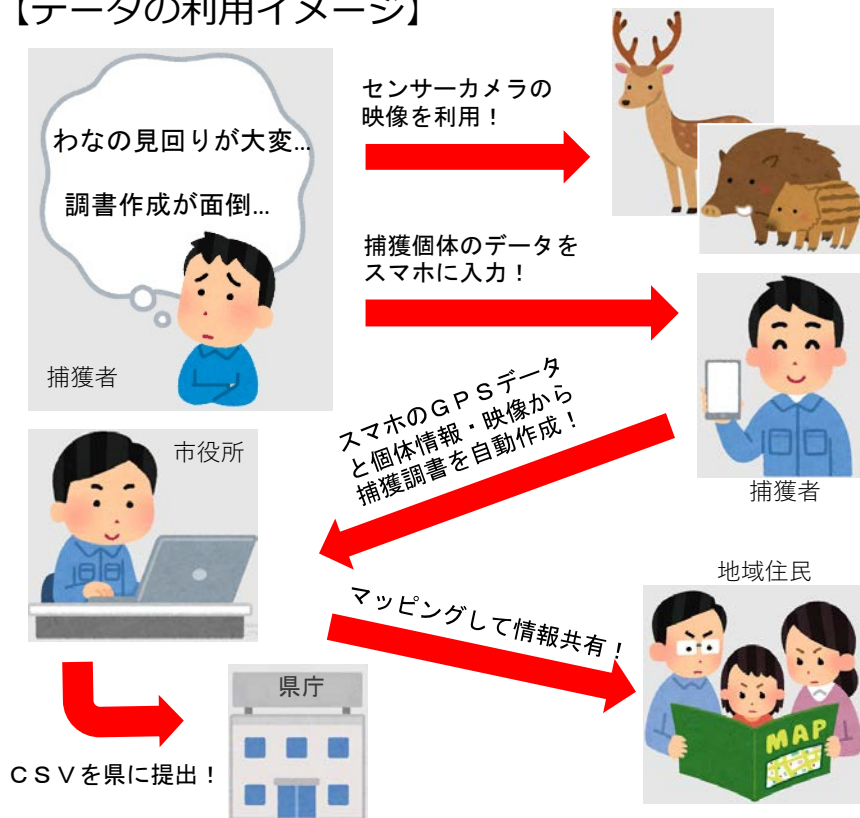
事業概要





- ・センサーカメラと捕獲わな監視システムによる、わなの見回りの省力化
- ・捕獲データから作成する調書やカメラで得られた情報を地図上にマッピングし、生息状況・捕獲情報等を可視化し、捕獲に活用
- ・生息状況の画像は農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーに提供し、捕獲技術の向上に活用

【イメージ】



【データの利用イメージ】



	R7年度実績	次年度以降実施予定
<p>実証内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・センサーカメラにより、捕獲に至らなかった場合でも、シカやイノシシがしきりに周辺のおいをかぎ、慎重に歩を進める様子や、カメラの方向を凝視する様子等、野生動物が頻繁に活動している様子が把握できた。また、黒毛のカモシカの子供は子グマと見間違ふ可能性があることなども判明した。 これらの映像データから、捕獲された数は害獣全体のほんの一部であり、まだまだ多くの害獣が生息している実態が把握された。 ・センサーカメラの使い勝手等を比較検証したところ、性能的には充分であるが高額で取り付け角度の調整に手間がかかるハイクカムは仕掛けたワナの近くに設置、遠隔で撮影範囲や向きを調整でき太陽光発電により電池交換の費用や手間が削減できるが、日陰となる場所では長期間の使用ができないMC1+は開けた場所の生態観察、といった使い分けが効果的であることが確認できた。 ・捕獲調書作成システムについては、リリース時期が猟期開始時期と近かったことから、猟期終了時点から本稼働する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>センサーカメラの映像 (生息状況調査に活用)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>わな作動時の プッシュ通知映像の例</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>自動作成された捕獲 報告書</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>マッピング 表示の例</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・センサーカメラのデータを利用して、地域での啓発に活かすとともに捕獲計画の策定に活用する。 ・今後、他の地区へ機器を増設する場合、木々が密集した山林内が多く想定されるため、ハイクカムを主力として導入することを検討する。Mc1+は害獣被害のあった地域のリモート監視などに使用することにより、一層、作業効率が向上すると考える。 ・捕獲調書作成システムにより、現場からスマホで捕獲情報を入力できる簡便さを狙ったものの、一部の端末機器（らくらくホン）では設定が一部困難であることが判明したため、捕獲者に代わる報告者を事前に決めるなどの対応を検討し、実証を継続する。
<p>導入機器 ※交付金活用外の機器を含む</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・捕獲調書作成システム ハンターレコード（電信）一式 ・センサーカメラ ハイクカムLt+lot（ハイク）30台 ・センサーカメラ MC1+（Azx）5台 ・プリペイドSIMカード 365日 20GB（モバイル・プランニング）90枚 ・プリペイドSIMカード 180日 10GB（AZx）30枚 ・SDHCカード 32GB class10（モノタロウ）30枚 ・LPWA通信機器 ワナの番人（マスプロ電工）40台 	<ul style="list-style-type: none"> ・捕獲調書作成システム改修 ・プリペイドSIMカード 35枚 ・単三乾電池の補充 ※冬季は気温が下がることで電池の出力が低下し、寿命が極端に短くなるため。